

第5回APCTP日本委員会会合議事録(案)

日時: 2007年12月1日(土)午前10時30分より午後1時まで

場所: 理化学研究所(和光)研究本館4階 435号室

出席者: 菅原寛孝(委員長、総研大)、藤川和男(日大)、北澤良久(KEK)、河本昇(北大)、横山順一(東大)、岡真(東工大)、保坂淳(RCNP)、川合光、古崎昭(理研)(以上順不同)

欠席: 二宮正夫(京大基研)、永長直人(東大)、土岐博(RCNP)、上田和夫(東大物性研)、九後太一(京大基研)、佐藤勝彦(東大)(順不同)

事務局: 鈴木博(多田司の代理)(理研)

議事次第:

承認:

1. 土岐博氏の後任としてRCNPの保坂淳氏に新しく委員会のメンバーとなっていたことを承認した。
2. 前回議事録承認
2006年7月1日に開催された第4回APCTP日本委員会の議事録を承認した。

報告:

1. 2007年3月31日に開催されたAPCTP General CouncilのMeetingについて、出席した河本委員から報告された。特に、2006年の活動状況、2007年の予算の概略に関する報告があった。予算は約2億円弱の予定。
2. 2007年3月31日に開催されたAPCTP Board of TrusteesのMeetingについて、出席した藤川委員から報告があった。とくに、新しい所長(President)の選出(DresdenのMax Planck Institute for Physics of Complex Systemsの前所長のPeter Fulde氏)の経緯に関する報告があった。同氏は1年の内3ヶ月APCTP滞在の予定。理研の永島氏に引き続き会計監査をお願いすることも報告された。
3. 第4回の日本委員会以降の動きとして、前回は高エネ研、物性研にも協力をお願いしたメンバーシップフィーを今後は理研の仁科センターが全額対応することになった旨の報告があった。
4. 新しい所長のPeter Fulde氏のイニシアティブのもと、Max Planck Societyと韓国政府の話し合いで、双方からそれぞれ約5千万円の寄金でAPCTPでの独自の研究活動を推進することとなり、とりあえず物性理論関係の若手のリーダーを2名公募したことが報告された。結果は決まり次第公表される予定である。
5. 新所長のPeter Fulde氏と委員会との意見交換に先立ち、同氏の経歴に関する簡単な紹介があった。

議事：

1. 高エネ研と物性研あてに、今年度からメンバーシップフィーを理研で全額負担するにいたった事情を説明し、前回の協力に感謝する文書を送ることが議論された。菅原委員長と事務局で相談し対応することになった。
2. 次回の日本委員会の前にAPCTPにおいてGeneral Councilメンバーの選出の議題が取り上げられた場合には、日本からの委員としては現在の川合、河本、永長の各委員に継続して委員をお願いすることとし、APCTPに推薦することになった。

新所長との懇談会：

議事終了後、日本を訪問中の新所長のPeter Fulde氏との懇談会をもった。Fulde氏からAPCTPの今後の活動内容と活動方針について説明があった。APCTPの設立の主旨に従った、アジアの理論物理の研究活動とくに若手研究者の養成に関して中心的な役割を果たすことへの積極的な方針が説明された。これに関して、Fulde氏からドイツのMax Planck Societyの発展途上国等への援助の実態が説明され、日本側からのAPCTPに対する今まで以上のサポートと経済的な協力要請があった。その後、日本として可能なcontributionとかUNESCOとの関連等に関する自由な意見の交換があった。懇談会の後、都合のつく委員とFulde氏が一緒に昼食をとった。

事務局注)

今回の会合の通知を上記出席者および欠席連絡者の他に、下記の各委員に送りました：

益川敏英(京産大)、安藤恒也(東工大)、赤石義紀(理研)、矢崎紘一(東女大)、小林誠(KEK)